

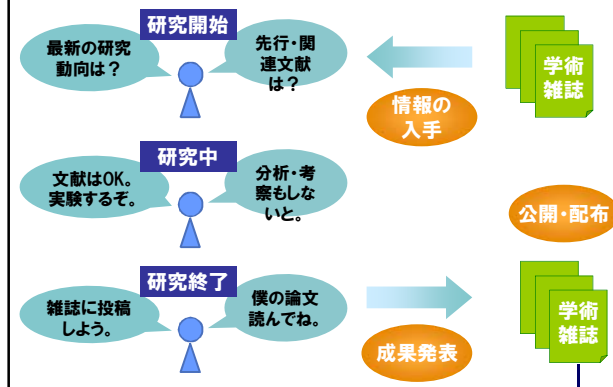
機関リポジトリ実務講義1 概論・コンテンツ収集

DRF/Share地域ワークショップ(兵庫)
広島大学図書館 上田大輔
dueda@hiroshima-u.ac.jp

アウトライン

- 学術情報コミュニケーション
- 機関リポジトリとは？
- 機関リポジトリ構築の実際
 - 機関内オーソライズ
 - システム
 - コンテンツ収集
 - プロモーション活動

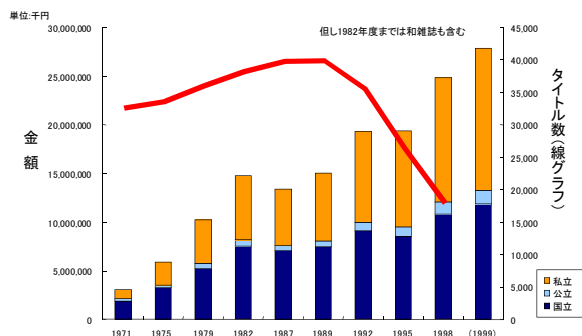
ある研究者の活動



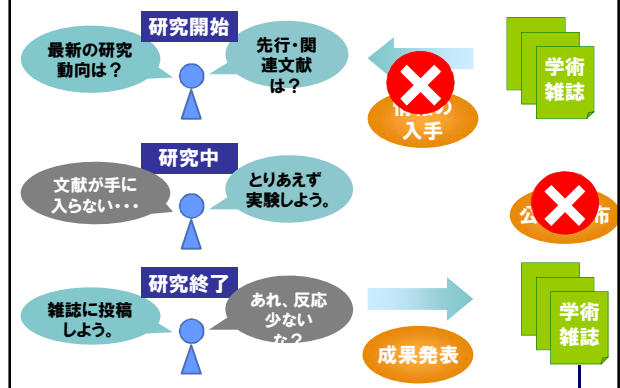
シリアルズ・クライシス

- 雑誌価格の高騰により、雑誌購読タイトルが減少
 - 研究に必要な情報が手に入らない
 - 自分の論文を読んでもくれる研究者も減少
- 雑誌価格の値上がり → 購読機関(者)減少 → 収益減少分を雑誌価格へ転嫁
 - $\text{コスト} \div \text{購読部数} = \text{雑誌価格}$ でしか回収できない

外国雑誌購入費及び受入タイトル数(日本)



ある研究者の活動



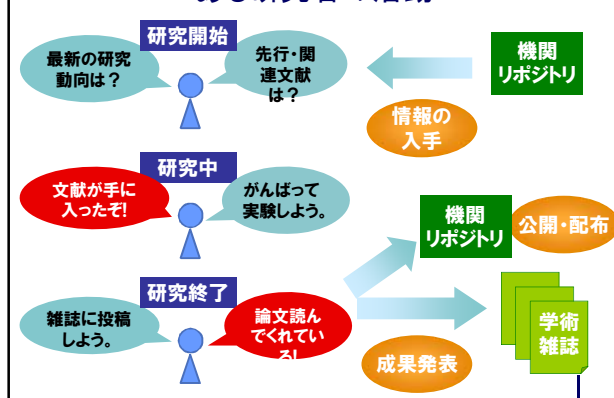
オープンアクセス

- デジタル形式で、オンライン上にあり、無料で、アクセスへの制限がない文献や論文
- オープンアクセスを実現する方法
 - Gold Road**
オープンアクセス雑誌、OAオプション
 - Green Road**
セルフアーカイブ（機関リポジトリ・プレプリントサーバ・著者ウェブサイトなど）

機関リポジトリのポジション

オンライン文献		
アクセス制限有り		
有料OJ	OAジャーナル	
	完全無料型、 著者支払い型、 エンバーゴ型、 etc.	機関リポジトリ、 プレプリントサーバ、 著者ウェブサイト、 etc.

ある研究者の活動



機関リポジトリとは？

リンチ(Clifford A. Lynch)

「大学とその構成員が創造したデジタル資料の管理や発信を行うために、大学がそのコミュニティの構成員に提供する一連のサービス」

研究者は著者でもある

- 従来
- 情報入手の支援
 - 読者としての研究者へのサービス
 - 図書・雑誌の購入・レファレンス
- ↓
- IR
- 情報公開の支援
 - 著者としての研究者へのサービス
 - 研究成果公開のプラットフォームを提供

機関リポジトリの必要性

- 機関が提供するインフラ
- 著者である研究者へのサービス
 - 研究成果公開のプラットフォーム
 - オープンアクセスの支援
- 機関の学術成果の公開・保存

あってよかったリポジトリ -広島大学研究者の声-

- リポジトリを利用することで(掲載論文を全部見ることができないとしても)費用の負担がなく読むことができるというのは**画期的なこと**だと思います。(理学研究科教授)
- 雑誌の値上げと購読誌の減少という悪循環で、私を含めて全文を読めずに困っている人は多いと思います。ぜひ、**大勢の人に読めるようにして下さるとありがたいです**。(保健科学研究科教授)

あってよかったリポジトリ -広島大学研究者の声-

- 出版不要のリポジトリは実に革命的で**研究の有様を大きく変えてくれそうで、楽しみです**。つい最近まで、こんな情報革命、夢にも思いませんでした。(文学研究科名誉教授)
- 広島大学の学術情報リポジトリに本誌の本文データが公開されたことは、**研究成果を広く還元していくうえで、とてもありがたく思っています**。これまで本誌を手にする機会のなかった方々にも掲載論文を目にさせていただきやすくなりました。(文学研究科教授)

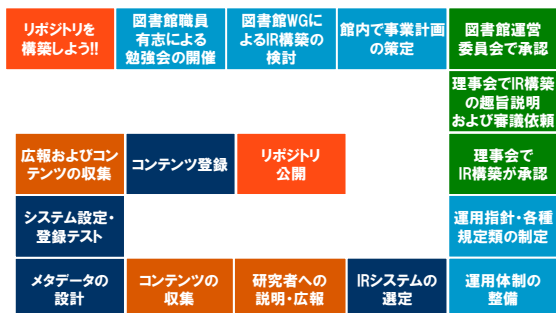
もう少し機関リポジトリ

- 電子図書館と機関リポジトリ
 - 電子図書館
 - 図書館が公開したいものを、図書館が公開する
 - 読者のためのサービス
 - 機関リポジトリ
 - 研究者(機関)が公開したいものを研究者(機関)が公開する
 - 著者のためのサービス

機関リポジトリ構築の実際

- 事業計画の策定
- 事業化(館内、機関内のオーソライズ)
- 運用指針・規定類の策定
- 運用体制の確立(作業分担、責任体制)
- システム調達、メタデータ設計
- 初期コンテンツ投入
- 広報、プロモーション、コンテンツ収集

トップダウンのモデル



ボトムアップのモデル



機関内のオーソライズ

- 目的
 - 機関内での位置づけの明確化
 - 必要な予算・人員の獲得
 - 幅広い認知活動
- キーパーソン
 - 機関上層部(学長・研究所長・理事など)
 - 部署の長(学部長・研究科長など)
 - 予算担当
 - 情報政策担当

規程に盛り込むべき条項例

- 目的・趣旨
- 管理・運営主体の規定
- コンテンツ提供者の定義
- 登録可能なコンテンツの定義
- 権利処理の規定
- 閲覧利用条件の定義
- コンテンツの変更、削除に関する規定
- 免責事項

※DRF wikiの「運用指針一覧」も参考に

機関リポジトリのシステム

- 多様な選択肢
 - 自力構築
 - 外部委託(導入・カスタマイズ・保守)
 - ホスティング・ASPサービス
 - 共同リポジトリ
 - クラウド

自力構築 or 外部委託

	業者委託	自力
経費負担	大	小
業務負担	小	大
構築スキル	不要	要
カスタマイズ	経済力次第	スキルに応じて自在
その他	業者による担保	システム技術の向上

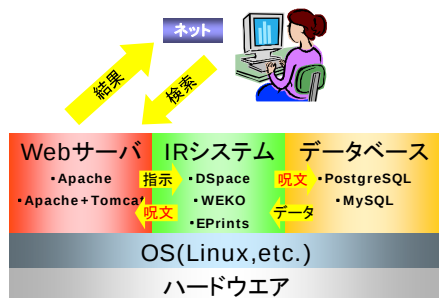
ホスティング・ASP

- サーバ設置が不要
- システム保守も不要
- 初期導入費 + 保守料金
- どこまでカスタマイズできる？
- 提供者者も増えつつある

システムを図書館に例えると・・・

IRシステム			図書館		
Web サーバ	IRソフト	データ ベース	総合 受付	係員	カード 目録
入力(キーボード等)			受入		
提示(画面・プリンタ等)			閲覧		
フォルダ・ファイル管理			分類・書架整理		
ネットワーク通信			図書館連携機能		
ハードウェア			建物		
(ハードディスク、メモリ、・・・)			(書架、ブックラック、・・・)		

IRシステムの概要



※呪文 = プログラム

IRシステムの機能

1. Webインターフェース
コンテンツを要求に応じて利用者に届ける
2. メタデータとファイルの管理
コンテンツの保存と整理
3. OAI-PMHに対応
メタデータを自動で持っていってもらう
4. その他

IRシステム(オープン・ソース)

名称	開発元 / 活動状況	国内シェア	開発言語 / DB
DSpace	MIT & HP / 活発	多 北大 他	JAVA PostgreSQL, Oracle
EPrints	サウサンプトン大学 / 活発	少 岡山大 他	Perl MySQL
WEKO	NII / 開発者が身近	?	PHP MySQL
Xoonips	理化学研究所 / 割と活発	少 慶大 他	PHP MySQL

IRシステム(商用)

名称	開発元	国内シェア	備考
E-Repository	CMS	少 千葉大 他	機関リポジトリのために開発されたシステム
NALIS-R	NTTデータ	中	DSpaceをベース
Infolib-DBR	InfoCom	小	DB統合+WWW公開
Infolib-ASP	InfoCom	?	ハード不要、アプリケーション部分だけが提供される
iLisSurf e-Lib	富士通	小	電子図書館システム

機関リポジトリのコンテンツ

- 所属研究者の研究成果と機関の活動成果
 - 学術雑誌掲載論文
 - 学会発表資料
 - 紀要論文
 - 学位論文
 - 記事・コラム
 - 研究データ など

コンテンツ収集戦略

	学術雑誌論文(個別モノ)	学内コンテンツ(一括モノ)
コンテンツ例	学術雑誌論文、学会発表資料...	研究紀要、学内刊行物 ...
出自	外で刊行	大学が刊行
対象物	把握しづらい	把握しやすい
アタック先	個々の教員	編集委、教授会など
収集範囲	著者が持っている。過去のものはあまり残っていないので、カレンダー分に絞らざるを得ない	初号から最新分まで。バックナンバーは刊行元か、書庫所蔵分のスキャンも。あとはアイディア次第
コストと効率	主に人的コスト。 コンテンツの開拓と収集に労力と時間がかかる。	主にスキャン経費 一括許諾が得られれば作業量は少ない。電子化の要望をうまく引き出す
IRの持続性への意義	教員ひとりひとりのIRへの理解と支持は事業継続の土台	いったん開拓できれば安定的なコンテンツ流入ルートに
いずれも	コンテンツの持ち主との対話、プロモーションがすべて	

コンテンツ収集: 学術雑誌論文

- 待っているだけではコンテンツは集まらない
 - この論文を下さい (過去の論文もしあれば...)
 - 文献情報DBから, 研究業績から, ILL受付論文など
 - まず1件登録を → 効果を実感してもらう
- 権利関係
 - 著作権譲渡契約書
 - セルフアーカイブは著者の権利として留保

コンテンツ収集: 紀要類

- 主な調整先: 紀要編集委員会
 - 電子公開の主体は紀要発行母体
 - 投稿規定の変更
- 新刊分: ボーンデジタルで!
 - 印刷業者からPDF納品
- バックナンバー
 - 権利処理 (事例)
 - 投稿規程を過去に遡って適用
 - ウェブサイトや紀要最新号でお知らせ
 - 著者ひとりひとりに許諾

コンテンツ収集: 学位論文

- 主な調整先: 各研究科, 学位審査委員会など
- すべてが公開可能ではない
 - 雑誌論文の抜刷・今後投稿予定
 - 特許取得, 出版予定との関係
- 新規授与分
 - 義務化?
 - 提出書類に許諾書を入れる
- 過去の授与分
 - 許諾事例: 著者ひとりひとりに許諾依頼

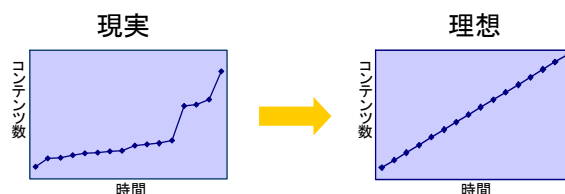
コンテンツ収集: 科研費報告書

- 平成19年度報告以前
 - 紙媒体による報告書
 - 多くの場合、発表論文の抜刷
 - 成果論文も合わせて収集できれば
- 平成20年度報告以降
 - 報告書 (4-5枚相当の電子報告)
 - NIIのKAKENデータベースに収録・公開
 - 成果論文の収集がメインになるか

コンテンツ収集の課題

- 自発的なコンテンツ提供を増やすには?
 - 研究者にとって魅力あるリポジトリに
 - 研究者ページの提供など
 - 外部システム (業績DBなど) との連携
- 提出の義務化?
- E-Scienceへの対応
 - 研究データの共有・活用

コンテンツ収集: よりリポジトリとは?



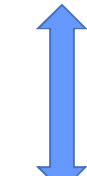
着実なコンテンツの獲得を!!

ROAR: <http://roar.eprints.org/>
IRDB: <http://irdb.nii.ac.jp/>

プロモーション活動

- 愛称、キャラクタ、グッズ
 - クリアファイル、バッグ、うちわ、食堂三角スタンド、缶バッジ、鉛筆ちらし、
- ポスター
- 説明会(教授会、自由参加型、データベース講習会のついで、...)
- 説明会の質疑応答、個別コンタクト、切り番インタビュー
- 統計情報のメール通知

広く認知度を
高める



意義を
感じてもらう

個別コンタクト

- 説得ではなく、話を聞きに行く
 - 研究について、成果発表方法について、情報の入手方法について、図書館活動について
 - 研究に対する理解が深まる
 - 図書館活動全体にとって有益
- 分野によって研究スタイルは違う
 - 状況に応じたアプローチが必要

あなたの機関にとっての 機関リポジトリとは？

1. なくてはならない存在
2. あったほうがいい
3. どちらでもない
4. なくても十分

機関リポジトリの構築・運用のハードルは下がっています。
後は、必要性を見極めてやるかどうかを決定するだけです。

分からないことがあったら

- DRF (デジタルリポジトリ連合)
 - メーリングリスト・ウェブサイト
 - ワークショップの開催
 - <http://drf.lib.hokudai.ac.jp/>
- UstrCom (ユーザー・コム)
 - リポジトリシステム体験サイト
 - 質問サイト
 - <http://www.ll.chiba-u.ac.jp/~joho/CSI/improvement.html>